

ふりがな 氏名	いわくま ひろこ	都道府県	神奈川県	
	<b>岩熊 広子</b>			
所属/肩書	<b>横浜市立市ヶ尾中学校 / 教諭</b>			
私のESD活動	<b>これからの社会を担っていく子どもたちと共に、持続可能な社会について考える</b>			
関心・活動のSDGs				

## 活動の概要

より良い未来をつくる活動として、私たちの学校では、大きく2つのことを行っている。

まず1つ目は、教員として、ESDの視点で目の前の子どもたちと接することである。私たちが暮らす地球は、今、様々な課題を抱えている。エネルギー問題や食糧問題、貧困について…。これらの課題を解決していくのは、今を生きる私たちであるし、これからの社会を担っていく子どもたちである。ESDとは、持続可能な社会を実現させていく力を持った人材を育成する教育だと私は理解している。まず、教員である私たちが、ESDについて理解を深めたうえでその視点をもって、様々な教育活動を行わなければならない。また2015年に国連で採択された持続可能な開発目標であるSDGsの17の目標の重要性を、子どもたちに広く周知させるべく、今年度はその取り組みに力を入れている。各行事後に、どのようなことを学び、それがSDGsの17の目標とどのように結びついているのか、そしてその目標のために、今、自分たちができることは何かについて考える時間がある。その成果もあり、生徒たちはSDGsの17の目標実現に向け、少しずつ歩き出している。

2つ目は、子どもたちが暮らす地域との関わりを考えさせることである。昨年度、私たちの学校のある横浜市青葉区とNPOが立ち上げた「まちの未来づくりプログラム～市ヶ尾ユースプロジェクト」の活動を通して、地域の一員である自覚を促している。

## 今後の活動の展望と周囲や社会への還元

この日本ユース・コンファレンスに参加することで得られた他の参加者の活動内容を整理し、まずは校内の教職員にも伝え、情報を共有したい。そして、自分の授業では、子どもたちの学び合いの場となるよう、しっかりと言語活動を取り入れ、子どもたちの考える力をより一層、養っていきたい。また、市ヶ尾ユースプロジェクトでは、地域と連携しながら、子どもたちのアイデアを実現できるように寄り添いたい。このように、今まで取り組んでいたものについて再度検討し、より良い活動になるよう改善しながら行っていきたい。

人を育てる“教育”は、一人ではできない。子どもたちを育てていくすべての人たちと、どのような子どもを育てていくのか…。これからの生きる子どもたちの在るべき姿をしっかりと話し、共通理解することが大切である。したがって、ESDの視点をもって、子どもたちに積極的にアプローチしていき、しっかりと考え、行動できる、持続可能な社会を実現させていく力を持った人材を育成したい。その力をもった子どもたちによって、より良い社会が築けるよう、願っている。